



INFORMATION

QFT (クオンティ フェロン) 受託開始のご案内

(正式名称 **結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン-γ**)

記

平素は当ラボを御利用下さいまして、誠に有難うございます。

従来、結核接触者患者の感染の判定、医療関係者の採用時検診などに主にツベリクリン反応検査が行われてきましたが、BCG接種の影響などを受け、疑陽性と判定されるケースが多く認められてきました。このたび、当ラボで受託開始致しますQFT (クオンティフェロン) 検査はBCG接種の影響は受けず、ブースター現象を起こさない為、繰り返して検査が出来ます。

正式名称は結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン-γですが、当ラボでは当面QFT (クオンティフェロン) の項目名称を使用させていただきます。

* 本検査の結果は、以下の基準による

測定値M (IU/ml) 陽性コントロール値	測定値A (IU/ml) 本検査用	結果	解釈
不問	0.35以上	陽性	結核感染を疑う
0.5以上	0.1以上 0.35未満	判定保留	感染リスクの度合いを考慮し 総合的に判断する。
	0.1未満	陰性	結核感染していない。
0.5未満	0.35未満	判定不可	免疫不全等が考えられるので 判定を行わない。

【専用試験管】



灰色 ⇒ 陰性コントロール
赤色 ⇒ 本検査用
紫色 ⇒ 陽性コントロール

採血量各1ml
(合計3本)

【報告日数】 4営業日 (受託日含む)

【項目コード】 3355

【保険点数】 (実施料) 600点 (判断料) 免疫学的判断料 144点

【検査依頼方法】 No.1 総合検査依頼書 その他の項目欄にQFTと記入してください。

***実施日 平成22年5月6日から受託予定**

(株)ジャパンメディカル

山梨県中央市乙黒354-11

TEL 055-220-4155

詳細については裏面をご覧ください。

Q F T (クオンティ フェロン) に関する事項

(正式名称 結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン- γ)

【使用目的】

全血の結核菌特異抗原との共培養による遊離インターフェロン- γ の測定

① 活動性結核の補助診断

X線所見や喀痰塗沫標本で結核菌を確認できず、他の臨床所見等で、**結核を疑う者**。

② 潜在結核の補助診断

(1) 接触者健康診断として、集団発生の際の感染性結核患者との**接触者**。

(2) 感染性結核患者との接触機会の多い**医療従事者**。

【採血及び採血後の保管法】

* 1人に付き、3種類の**専用採血管** (灰色・**赤色**・紫色) での採血が必要です。

* 採血管は室内温度 (**17~27°C**) に戻してから、使用して下さい。(採血管の分離剤部分は手で握るなどして暖めないで下さい。)

* 3種類の採血管は、の順序に血液各**1ml** (採血管の側面マークまで) を採取して下さい。

* 採血後、採血管は激しく振らないように、上下に**5秒間**又は**10回**振って混合して下さい。

(強く振りすぎると、分離剤の成分が血液と混ざり誤った検査結果となる事が有ります。)

* 採血後の検体は、**17~27°C** (室内温度) で保管して下さい。(冷蔵・冷凍保存は厳禁)

* **採血時間**を必ず依頼書に明記して下さい。(採血後16時間以内に培養に入らなければいけない為。)

【判定上の注意】

- ① 本検査の結果が陰性であっても、潜在性結核感染あるいは結核の可能性を否定するものではない。感染の段階 (例えば、細胞性免疫応答が進展する前に得られた検体)、合併症により、免疫機能に影響を受けている状態、血液検体の不適切な取扱いにより、偽陰性を示す事が有る。
- ② 本検査の結果が陰性であっても、結核感染の可能性を示す臨床所見、病歴及び結核発症リスクに関して考慮しなければならない。特に免疫機能が損なわれた被験者には注意が必要である。
- ③ 本検査が陽性の場合であっても、被験者の病歴、臨床所見に基づいて、総合的に判断すること。
- ④ 本検査の結果が陽性であった場合、塗沫検査や培養検査、胸部X線検査等により、活動性結核の診断を行うこと。
- ⑤ 本検査で使用する結核菌抗原のESAT-6、CFP-10及びTB7.7は、全てのBCG株とほとんどの非結核性抗酸菌に存在しないが、M.kansasii、M.szulgai、M.marinumにはESAT-6、CFP-10の、また、らい菌M.LepraeにもESAT-6、CFP-10の類似抗原の存在が知られているため、これらの感染によっても、本検査結果が陽性となることがある。結核菌と非結核性抗酸菌との鑑別をするためには、分離培養法、PCR法等により、菌の同定を行うこと。
- ⑥ 以下のような特殊な被験者は使用経験が少なく、有用性が確認されていないので注意すること。
 - * 妊婦
 - * 17歳以下の症例
 - * 現在薬剤を投与されている患者
 - * 過去に結核に感染し、治療を行った者